

報恩道語

発行：報恩山海徳寺
〒275-0016
習志野市津田沼 5-3-3
電話：047-452-3094
FAX：047-489-5093
<http://kaitokuji.net>

今月の聖語

仏の金言を

試みよ

日蓮聖人御遺文「曾谷入道殿許御書」

金(きん)と金(かね)

金言とは、広くはお釈迦さまの言葉である経典全体のことですが、なかでも最も純粹なものを示します。その純粹な金言とは、すべての人びとを仏としようとするお釈迦さまの永遠不滅の誓願のことです。

それを「こころみよ」とは、どんなに辛く悲しいことがあったとしても、この誓願を信じきって、身を任せて生きていこうとすることです。このような精神に立ったとき、必ず安穩なる社会が開けてくるのです。

出典：日蓮宗新聞社発行『今月の聖語』

平成二十八年の申年から、平成二十九年の酉年を迎えました。酉年の「酉」とは、「果実などが熟した状態」のことを表し、そこから派生して酉年は「商売繁盛の年」といわれるそうです。

年末の恒例行事となりつつある「今年の漢字」として、昨年は「金」という漢字が選ばれました。「金」という漢字はこれまでオリンピックが開催された年に二度選ばれており、今回で三度目。昨年はリオオリンピックが開催されたことや、政治にまつわるお金の問題、さらには世界的に流行したPAPの金色の衣装等が話題となったことがその選定理由でした。

「金」という漢字は読み方によっては、「きん」と「かね」の二通りの読み方ができます。一字では「金」であっても読み方が違うことで、その意味も大きく異なります。このように考えると、災いが起きやすいという「厄年」も、その受け取り方によっては異なるのではないのでしょうか？私自身本厄であった昨年を振り返り、確かに色々なことがありましたが、解釈によってはこの程度の災難で済んでよかったという安堵の気持ちもあります。

「大難は小難、小難は無難」と転じて、平成二十九年の酉年が皆様にとって良い年となることを心より御祈念いたします。

(海徳寺住職・加藤智章)

